

平成 30 年度 教育経営の充実に関する研究グループ 活動報告

1 教育経営グループ組織

	小 学 校		中 学 校	
グループ主任	三浦 礼子	名寄南小		
副主任	赤澤 静恵 野村 智明	風連中央小 名寄東小		
研究主任	小林 勝彦	名寄小		
副主任	桑原 久美	名寄南小	篠原 純也	名寄東中
	三戸 孝之	智恵文小		
委 員	櫻田和歌子	名寄小	佐藤 誠	名寄中
	田中 淳也	名寄南小	吉本陽之介	名寄東中
	川浦 直也	名寄東小	木戸口 玲	智恵文中
	大橋 毅士	名寄西小	吉野由希子	風連中
	須藤 仁志	風連中央小		
	萬城目久美子	智恵文小		
	久保 稔	中名寄小		
	佐藤 琢磨	風連下多寄小		

2 本年度の研究内容

	研 究 項 目	分 担
学 校 経 営 の 充 実	本市共通のモデル的な学校経営計画の改善・充実	グループ 1 【グループ主任，副主任：赤澤校長】 ・市内各校長へのアンケートを受けた修正案の提示
	市街地を中心としたコミュニティスクール導入の促進と取組状況の確認	グループ 2 【グループ主任，研究主任，研究副主任：桑原教頭】 ・骨子は校長会中心に作成 市教委と連携
	各種指定事業に基づく実践交流	グループ 3 指定校の発表や説明(地域連携研修)，市教研大会の会場校発表をもって済とする。
学 級 経 営 の 充 実	学校経営計画と連動した学級経営案等の作成・検討・改善	グループ 4 【グループ副主任：赤澤校長，研究主任，研究副主任：三戸教頭，委員】 ・ミドルリーダー研修での検討課題
	ミドルリーダー研修や教育課程に関わる先進校視察研修等の実施 社会に開かれた教育課程の実現への取組	グループ 5 【グループ副主任：野村校長，研究主任，研究副主任：篠原教頭，委員】 ・先進校への視察研修の実施 ・定期的なミドルリーダー研修の実施

3 今年度の活動経過

年	月	日	主 な 内 容	備 考
30	4	24	□第1回教育改善プロジェクト委員会	名寄庁舎4階大会議室
	5	23	□第2回教育改善プロジェクト委員会 ●第2回教育経営グループ会議（推進計画，研究内容の具体化等について協議） *CS，小中一貫教育について（今後の取組の具体等） *視察研修について（情報交流，調査依頼等） *学級経営案について（昨年度の経過，今後の取組等）	15：00～ 名寄庁舎4階大会議室 ②～⑤グループ
	5		・先進校視察研修の希望調査集約 ・ミドルリーダー研修（5月より月例で実施 15時～） 中学校の主幹教諭，教務主任も参加する。	⑤のグループ 調整：研究主任
	6		●グループ研究内容・推進計画等の各学校及び他グループへの発信，連携 ・先進校視察研修の選定・日程調整の開始 ・CS，小中一貫教育に係る取組の開始 ⇒市教委との連携 ・学級経営案，教育課程について協議 （ミドルリーダー研修）	5・6月は研究副主任 中心にグループ運営 ⑤のグループ ②のグループ ④のグループ
	7		●第3回教育経営グループ会議 ・学校経営計画の改善・充実に係る取組の開始 ・学級経営案，教育課程について協議（ミドルリーダー研修） ・先進校視察研修の案内及び参加者集約 ・CS，小中一貫教育に係る取組 ⇒市内実践校との連携	①のグループ ④のグループ ⑤のグループ ②のグループ
	8		・学校経営計画の改善・充実に係る取組 ・視察研修の実施（8～10月中に1回） 視察研修の報告書作成	①のグループ ⑤のグループ
	9		●第4回教育経営グループ会議 ・①～⑤グループの進捗状況の確認，協議他	①～⑤グループ
	10		・視察研修の実施（8～9月の間に実施できていなければ）	⑤のグループ
	11	14	○名寄市教育研究大会	名寄東小，名寄中
	12	13	□第3回教育改善プロジェクト委員会 ・各研究グループの研究の成果と課題 ・教育研究集会における発表内容の精査	15：00～ ①～⑤グループ
31	1	22	名寄市教育研究集会 EN-RAY ホール	EN-RAY ホール
	2		・市内共通学年学級経営案検討（ミドルリーダー研修） ・平成30年度の研究の成果や課題等について確認	15：00～（予）

4 今年度の活動

(1) 市内共通『学校経営計画』の更新

資料1

- 1) 学校経営計画の改善・充実に係る取組の開始（7月～）
- 2) グループ副主任による実態調査(アンケート), 分析, 更新の実施（9月～11月）
- 3) 次年度に向け, 完成版の提示（教育委員会）（12月）

(2) 市街地校へのコミュニティスクール導入と名寄市の現状

資料2・3

- 1) 経緯と今後の流れ
 - 6月 校長対象のアンケートを実施（教育改善P）
 - 7月 アンケートの集約, 考察（教育改善P）
 - 8月 CSの市内地区割り確定（教育委員会・教育改善P）
【智恵文地区・風連地区・中名寄地区・東地区・西地区・北地区・南地区】
 - 10月 CS制度説明会：文化センターにて2回実施（教育委員会・教育改善P）
- 平成31年
 - 2月 学校運営協議会委員予定者への制度説明会（教育委員会・教育改善P）
 - 3月 名寄市教育委員会への申請（各学校）
 - 4月～5月 第1回学校運営協議会・委員委嘱（各地区・教育委員会）
- 2) 市内の現状
 - ①智恵文地区(智恵文小・智恵文中)H29年4月, 東地区(東小)H30年5月, 中名寄地区(中名寄小)H30年6月より, それぞれ学校運営協議会をスタート
 - ②風連地区(風連中央小・風連中)
風連中央小学校運営協議会がH30年4月よりスタート
次年度, 風連中との合同の運営協議会を発足。そのための準備を推進中
 - ③西地区(西小)
9月地域関係者やPTAを招聘。CSに関する説明会を実施。推進委員会発足
 - ④北地区(名寄小・東中)
小中学校の管理職による検討委員会を10月に実施。推進委員会の計画を作成
 - ⑤南地区(南小・名中)
小中合同会議を11月に実施。推進委員会の計画を作成

(3) 市内共通『学級経営案』の完成とH31の完全実施

資料4・5

- 1) ミドルリーダー研修会での意見交流を主軸とした改訂版の作成
- 2) 「具体的な手立て」欄の表記をできるだけ数値化。学校経営計画「年度の指導の重点」の「評価基準方法」を活用
- 3) 数値化された「具体的手立て」を受けた「成果と課題」欄の客観的評価記述の実現
- 4) 3学期, ミドルリーダー研修で最終調整を行い, 各学校へ周知。H31年度より市内小中学校で完全活用

(4) 先進校視察

資料6

- 1) 5月：視察研修アンケート実施
- 2) 8月：視察研修場所の決定
- 3) 10月：視察研修実施
 - ① 研修名 北海道道德教育研究大会上川・旭川大会
 - ② 日時 平成30年10月19日(金)
 - ③ 研修先 旭川市立朝日小学校 旭川市立中央中学校
 - ④ 参加者 名寄市教育改善プロジェクト委員会 名寄市小中学校教職員14名



⑤ 日 程

- 9 : 3 0 公開授業 小学校7本（1年2本，2年1本，3年3本，6年1本）
中学校6本（1年2本，2年2本，3年2本）
- 1 0 : 3 0 授業分科会
- 1 2 : 4 5 開会式
- 1 3 : 3 0 課題別分科会
道徳科の指導と評価，道徳科と他の教育活動との関連，
道徳科における教材の選択と活用，
今日的な課題・地域性等を生かした道徳教育
- 1 5 : 0 0 講 演
「『特別の教科道徳』全面実施を迎えて
～授業作り・評価・カリキュラムマネジメント～」
講 師 柴原 弘志 氏
(元文部科学省初冬中等教育局調査官・京都産業大学教授)

(5) ミドルリーダー研修 (小学校・中学校合同)

資料7

- *南小学校を会場に，各小中学校の主幹教諭，教務主任が集まり，4回の研修を実施
- *今日的課題に対応した情報交流や学習会を推進

1) 5月，6月，8月

- ① 市内共通「学級経営案」について
- ② 道徳・外国語・総合的な学習の時間等について
- ③ 「外国語」「外国語活動」の指導計画及び評価について
- ④ 「道徳」の指導計画及び評価について
- ⑤ 「総合的な学習の時間」の実践交流について
- ⑥ スタートカリキュラムについて
- ⑦ 小中連携に関する各校種からの要望について
- ⑧ 新学習指導要領移行措置に関わる各校の取組について

2) 10月

- ① 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の名寄市内小中学校の分析と今後の傾向と対策（市教育委員会・千葉参事より説明）
- ② 新学習指導要領移行措置について

3) 今後の予定

- ① 小中連携の効果的な取組について
- ② 市内共通「学級経営案」の完成

5 成果と課題

【成果】

- 市街地校のCS導入を市教委と連携し推進することができた。
- 小学校の教務主任や主幹教諭のみで実施していた「ミドルリーダー研修」を中学校の教務主任・主幹教諭を加えて実施し，今日的課題への各種取組を推進することができた。
- 市内共通の「学校経営計画」更新に着手。市内共通の「学級経営案」のH31年度完全実施にむけた取組を推進することができた。
- 北海道・道徳教育研究大会が旭川市で開催されたため，多くの委員が参加。先進的道徳教育の市内還元を推進することができた。

【課題】

- ▲ 「学校経営計画」「学級経営案」の実態調査を実施。P D C Aを機能させた継続的なバージョンアップを確実に実行する。
- ▲ 困り感のある児童生徒が在籍することを前提とした学級経営の充実について、具体的な成果及び取組指標等のモデルを提示する。
- ▲ 限られた予算等の条件を考慮し、より有意義な先進校視察の在り方について検討する。
- ▲ 小中それぞれの文化の枠を越え、より具体的で実効性のある小中の連携に取り組む。
- ▲ 社会に開かれた教育課程の編成について、ミドルリーダー研修を機能させ、市内で協働した取組を推進する。
- ▲ 各種指定事業に基づく実践交流のとりまとめを行う。